第１回
日本シニア小児科医連盟会議

日時：平成 26 年 4 月 11 日（金曜日）18：30－21：00

会場：ANA クラウンプラザホテルグランコート名古屋 5 階「しらさぎ」

プログラム

発足の趣旨

衛藤　義勝

（(財)脳神経疾患研究所先端医療研究センター長／東京慈恵会医科大学名誉教授）

シニア小児科医の大学での臨床、研究活動

山城 雄一郎

（順天堂大学プロバイオティクス研究講座教授・名誉教授）

シニア小児科医の教育活動―ハワイ大学臨床教育

安次嶺 馨

（沖縄県立中部病院／ハワイ大学卒後医学臨床研修事業団ディレクターハワイ大学医学部小児科臨床教授）

討　論

我が国は世界で最も急速に老齢化社会に突入し、65 歳以上の人口は全人口の 4 分の 1 を占め、3200 万人に達します。このような状況下において小児科医も老齢化し、全国小児科医全体の 3 分の 1 は 65 歳以上です。しかしながら、我が国の平均寿命は女性 86 歳、男性 80 歳時代を迎え、65 歳以上のシニア医師は十分にまだ社会で活躍できる能力と力を有していますが、米国と異なり、大学では 65 歳定年で、今までの豊富な臨床、研究、教育に対する経験を十分に次世代に繋げることなく、余儀なく大学を去らねばならない状況にあります。一般病院でも同様な傾向にあり、開業医は外国並みに定年制を設ける話題も出ています。また、小児科医は地方では極めて少ない状況で、アンバランスな医師分布でもあります。

そこで、65 歳以上のシニア小児科医が活力を持ち我が国の小児医療、医学に貢献する為の社会への啓蒙活動並びに社会での更なる活動を求め、人生の QOL を上げるためにも、本連盟を立ち上げる運びとなりました。